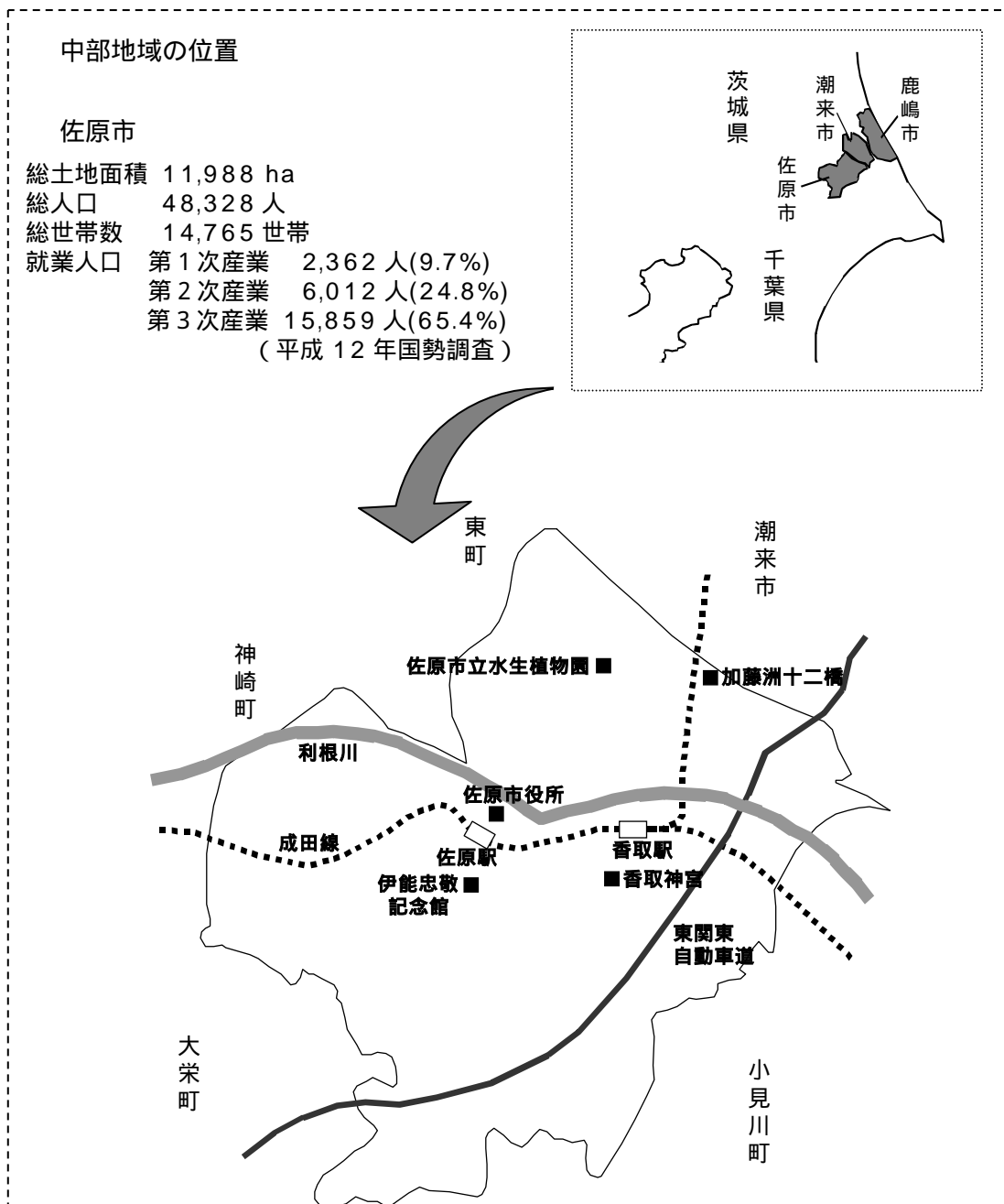


3章

中部地域（佐原市・鹿嶋市・潮来市）での取り組み

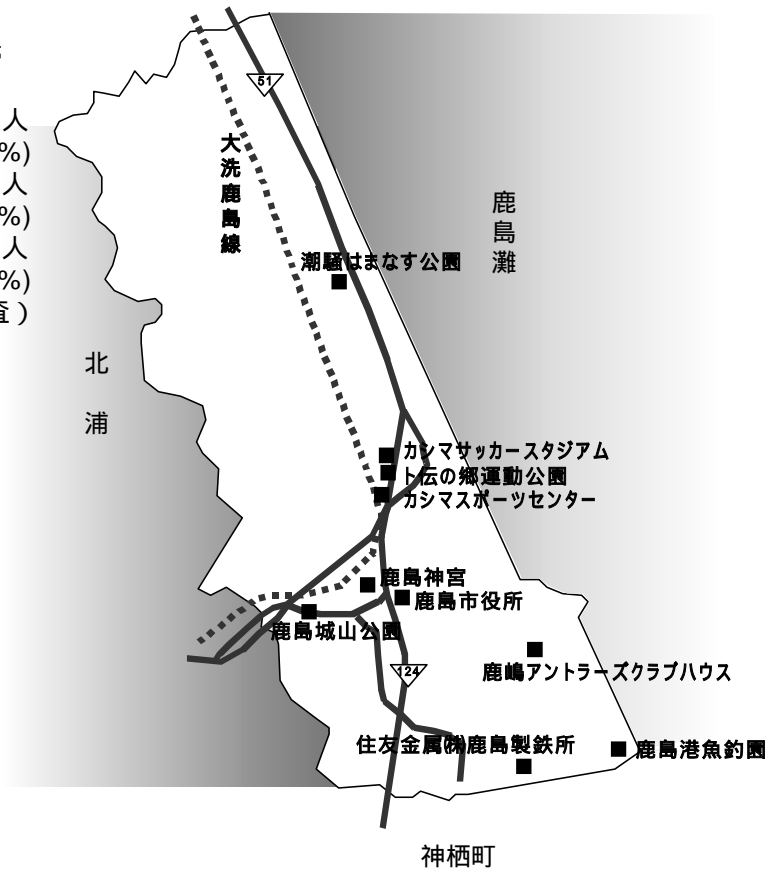
3 - 1

中部地域の概要



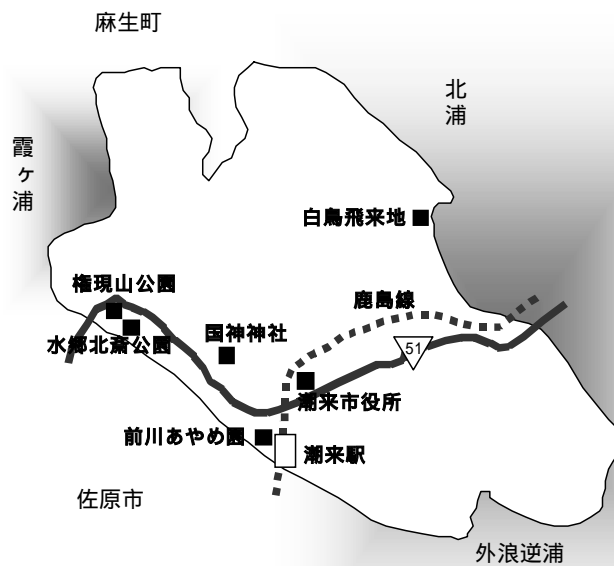
鹿嶋市

総土地面積 9,296 ha
 総人口 62,287 人
 総世帯数 21,539 世帯
 就業人口
 第1次産業 1,369 人
 (4.6%)
 第2次産業 11,211 人
 (37.3%)
 第3次産業 17,506 人
 (58.2%)
 (平成12年国勢調査)



潮来市

総土地面積 6,267 ha
 総人口 31,944 人
 総世帯数 9,862 世帯
 就業人口
 第1次産業 851 人
 (5.3%)
 第2次産業 5,588 人
 (35.1%)
 第3次産業 9,492 人
 (59.6%)
 (平成12年国勢調査)



中部地域の主な地域資源

佐原市

- ・香取神宮（下総の国一の宮。本殿・楼門は国の重要文化財の指定を受けている。）
- ・伊能忠敬記念館（忠敬の人生を年代順に追い、その業績である伊能図を紹介。）
- ・佐原の町並み（江戸時代から昭和初期までの商家が建ち並ぶ古い町並み。平成8年に国の選定を受けた重要伝統的建造物群保存地区(伝建地区)と、これを取り囲む景観形成地区(景観地区)がある。）
- ・佐原の大祭、水郷佐原山車会館、佐原囃子（平成16年2月6日、「佐原の山車行事」が国の重要無形民俗文化財に指定される。）
- ・佐原市立水生植物園（水郷筑波国定公園の表玄関として水と緑を生かした観光レクリエーション施設。あやめ祭り、はす祭りも開催される。）
- ・十二橋巡り（サッパ舟と呼ばれる小舟に乗って女船頭の竿捌きで細い水路を進む。）
- ・ふなつり（水郷筑波国定公園内の横利根川がふなつりのメッカとして知られる。）

〔香取神宮〕



鹿嶋市

- ・鹿島神宮（常陸国一の宮。本殿は国の重要文化財に指定されている。）
- ・下津海岸（鹿島砂丘の白い砂浜が美しい海岸。）
- ・鹿島アントラーズクラブハウス（練習グラウンドでのトレーニング風景も一望できる施設。）
- ・県立カシマサッカースタジアム（収容人数41,800人国際試合に対応した本格的サッカー専用スタジアム。鹿島アントラーズのホームスタジアムでもある。）
- ・鹿島港魚釣園（鹿島港内に設けられた魚釣り用の施設。）
- ・北浦（ブラックバスや鯉などを狙う釣り人で賑わう。大きな帆を掲げた帆船を見ることもできる。）
- ・城山公園（鹿島城跡に数百本の桜が植えられ、春には桜まつりが行われる。）
- ・はまなす公園（海拔77m、360度のパノラマが楽しめる宇宙展望塔がシンボル。プラネタリウムや郷土資料館・美術館が併設されている。）

〔鹿島神宮〕



潮来市

- ・前川あやめ園（6月のシーズン100万株のあやめが咲き誇る。）
- ・あやめ祭り（毎年6月1日から6月30日まで開催、嫁入り船が見られる。）
- ・潮来祇園祭礼（毎年8月7日～9日に開催され、14台の山車が町中に繰り出す。）
- ・とんぼ公園（遊びながら、自然と親しむ事ができる総合自然環境テーマパーク。）

- ・水原の白鳥(昭和56年の初飛来以来、毎年水原地区にやってくるコブハクチョウ。)
- ・権現山公園(霞ヶ浦、筑波山、遠くは富士山を望むことができる。)
- ・水郷北斎公園(霞ヶ浦から流れ出る常陸利根川に沿って広がる公園。)
- ・大膳池(森に囲まれ、大蛇伝説の伝わる神秘的な雰囲気をもつ大膳池。現在、県立水郷県民の森として計画が進められている。)
- ・かすみの郷公園(多目的グラウンド、アドベンチャーの森や、レクリエーションの森、森林浴の森などがある。)
- ・国神社(茨城県には数少ない獅子舞が演じられる。県の無形文化財に指定されている。)
- ・長勝時(源頼朝が武運長久を祈願して創建。銅鐘は国指定重要文化財、本堂・本尊は県指定文化財となっている。)
- ・道の駅いたこ(株式会社いたこ(第3セクター)により運営。地域や観光の総合案内の他、新鮮市場「伊太郎」やアンテナショップ、「水郷潮来のかあちゃん手むすび」等がある。)

〔道の駅いたこ〕



3 - 2

中部地域のコミュニティビジネスの現状

中部地域（佐原市・鹿嶋市・潮来市）の主な市民活動団体は18団体。NPOの件数を見ると、佐原市が4件、鹿嶋市が6件、潮来市が4件となっている。意欲あるコミュニティビジネス予備軍は存在するが、数は少なく、コミュニティビジネスの地域への理解、認知度の向上が必要であるといえる。

コミュニティビジネスに対する地域の状況は以下の通りである。

自治体のコミュニティビジネス支援体制
地域の新たな担い手としての期待はあるが、支援体制は現状ではほとんどない。
有力中間支援型NPOの存在
現状存在していない。
既存CB団体数
昨年11月現在で14団体のNPOが存在しているが、数は少ない。
意欲あるCB予備軍の存在
「小野川と佐原の町並みを考える会」「小江戸さわら会」「水郷潮来のかあちゃん手むすび」等のコミュニティビジネス予備軍が存在するが、全体の状況は不明である。
地域住民のCBへの理解
現状理解されていない。市民の認知度、行政の理解を図る必要がある。

（平成16年1月現在）

中部地域の主な市民活動団体

団体名	所在地	団体名	所在地
NPO法人 サポート水郷会	潮来市	NPO法人 内モンゴル砂漠植林交流協会	鹿嶋市
NPO法人 霞ヶ浦里山ネット	潮来市	NPO法人 ニューライフカシマ21	鹿嶋市
NPO法人 居宅介護支援事務所なすな	潮来市	NPO法人 まちおこし佐原の大祭振興協会	佐原市
農事組合法人 水郷潮来のかあちゃん手むすび	潮来市	NPO法人 地域医療振興会	佐原市
NPO法人 ピコット	潮来市	NPO法人 千葉県マッサージ師会	佐原市
NPO法人 襲の会	鹿嶋市	NPO法人 水郷軟式少年野球協会	佐原市
NPO法人 ぱれっと	鹿嶋市	小江戸さわら会	佐原市
NPO法人 ナースリソルト	鹿嶋市	小野川と佐原の町並みを考える会	佐原市
NPO法人 かしまスポーツクラブ	鹿嶋市	町並み案内ボランティアの会	佐原市

（平成16年1月現在）

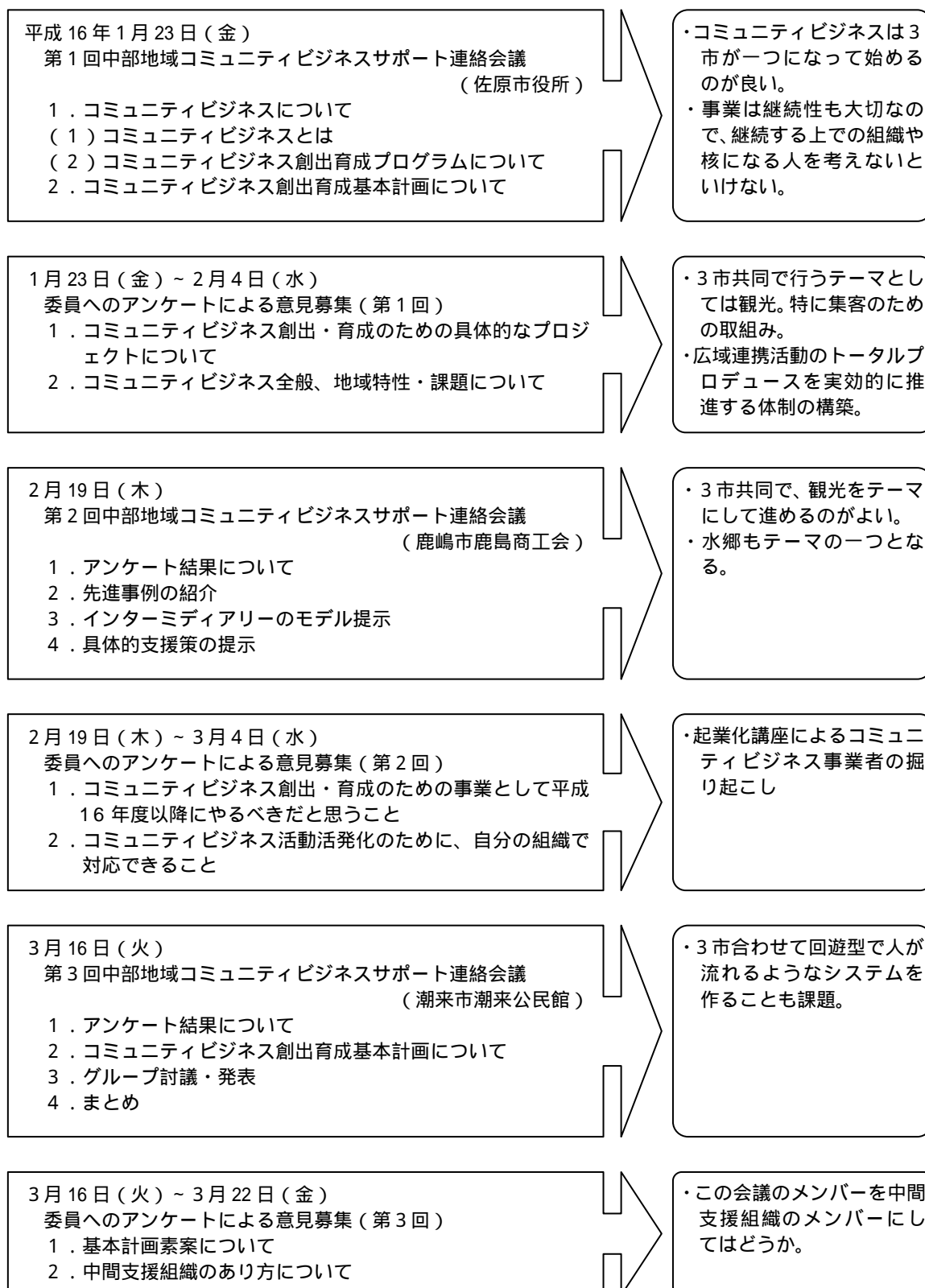
3 - 3

中部地域の活動状況

検 討 事 項	主 な 意 見
<p>平成 15 年 12 月 16 日 (火) 中部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議準備会 (佐原商工会議所)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業概要説明と千葉・茨城県境エリアの地域特性分析 2. 基本計画(ビジョン及びアクション)を決めるための手順の検討 3. コミュニティビジネスサポート連絡会議のメンバー選定 4. 第1回コミュニティビジネスサポート連絡会議の日程調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員構成は、3市各々の商工会・商工会議所、観光協会、商店街、NPO等から。 ・千葉県庁、茨城県庁、金融機関も必要である。金融機関としては、佐原信用金庫が良い。

中部地域コミュニティビジネスサポート連絡会議委員名簿

氏 名		所 属 ・ 役 職
佐原市	柏 木 幹 雄	佐原商工会議所 副会頭
	角 田 敏 郎	水郷佐原観光協会 事務局長
	永 野 光 男	(株)ぶれ・きめら 常務取締役
	永 野 美 知 子	NPOまちおこし佐原の大祭振興協会
	谷 田 部 昇 一	小江戸さわら会 代表世話人
	八 木 秀 時	小江戸さわら会 副代表世話人
	加 瀬 順 一 郎	小野川と佐原の町並みを考える会 代表世話人
鹿嶋市	石 崎 光 広	鹿嶋市鹿島商工会青年部長
鹿嶋市	石 津 久	鹿嶋市観光協会事務局長
鹿嶋市	粟 屋 ト ク	鹿嶋市まちづくり中央委員会委員
鹿嶋市	松 信 正	宮中地区商店会連合会
鹿嶋市	原 田 八 郎	(株)かしまメテイ工
潮来市	宮 内 一 行	潮来市潮来商工会長
	山 口 敏 雄	潮来市牛堀商工会長
	鴫 田 清 一	水郷潮来観光協会長
	永 井 弘 子	潮来市潮来商工会女性部長
	平 山 千 恵 子	潮来市牛堀商工会女性部長
	高 田 秀 子	農事組合法人 水郷潮来のかあちゃん手むすび 代表理事



平成 16 年 3 月 16 日作成

中部地域の基本計画（抜粋）

中部地域では、地域で共通のコンセンサスを確立する、地域を盛り上げる仕掛けをつくる、コミュニティビジネスの持つ課題を解消する、という問題を解決するために、以下の基本計画を策定した。

1. 中部地域のテーマ

コミュニティビジネスの創出・育成は
「観光」をテーマとする

佐原市、鹿嶋市、潮来市の地域課題（コミュニティビジネスの舞台）は、地域活性化（地域力の醸成）である。

佐原市、鹿嶋市、潮来市は、水郷地域として、鹿島神宮、香取神社のお膝元として発展してきた。観光産業の遺伝子が脈々と流れている。また、活用できる観光資源が数多く存在する。

町並み保存など観光関連の市民活動やコミュニティビジネスの予備軍が萌芽しつつある。

2. 中部地域のコミュニティビジネス創出育成の展開方針

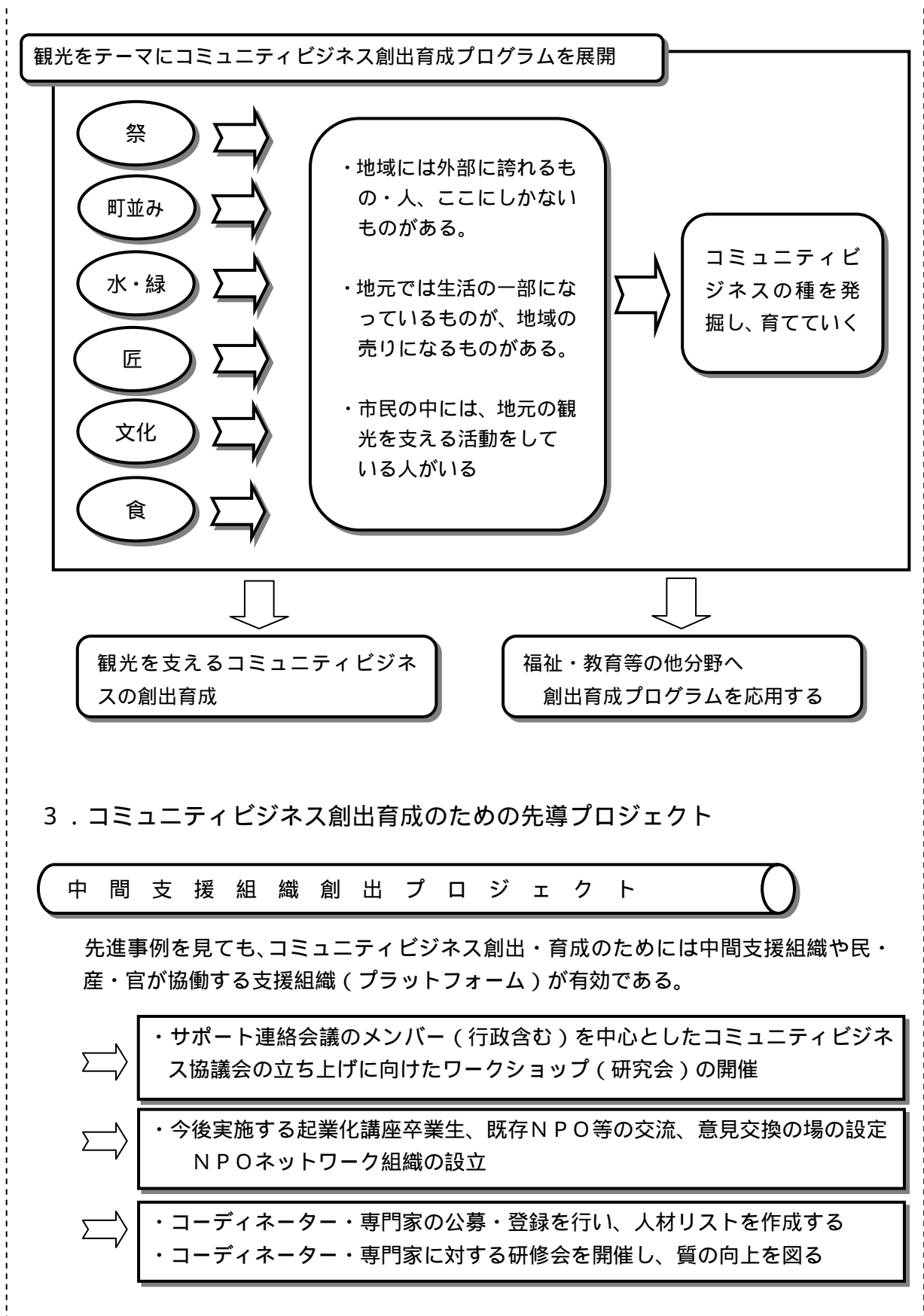
中部地域では、以下の方針に沿ってコミュニティビジネスの創出育成を実施するものとする。

佐原市、鹿嶋市、潮来市は、観光を核として、観光と他産業のコラボレーションで地域力を創造することが有効である。

観光と商店街、観光と農業、観光と漁業との協働

3市におけるコミュニティビジネス創出育成は、観光を切り口として、観光関連のコミュニティビジネスの創出育成プログラムを展開する。

観光をテーマとして成功事例を導き出し（一点突破）、成功事例から得たコミュニティビジネスの創出育成のプログラムを他に応用する（全面展開）手法で、コミュニティビジネス創出育成に取り組む。



コミュニティビジネス普及啓発プロジェクト

市民・企業への普及、行政・商工団体等への啓発を行う。

- ⇒ ・シンポジウムの開催
・起業化講座の開催
- ⇒ ・起業相談の実施（当面は外部専門機関との連携）
- ⇒ ・行政と商工団体等とNPO等との意見交換の場の設定
- ⇒ ・既存コミュニティビジネスの活動報告・広報（マスコミ、広報誌）
- ⇒ ・先進地域との交流会
・先進地域の事例の収集・提供

コミュニティビジネス育成プロジェクト

観光をテーマにしたコミュニティビジネスの育成を図る。

地域課題の解決に向けた人材を育成する。

仲間づくりの支援を行う。

- ⇒ ・観光ガイド養成講座の開催
- ⇒ ・コミュニティビジネスホームページの開設
・コミュニティビジネスメーリングリストの開設
- ⇒ ・事業計画作成アドバイスの実施
- ⇒ ・コミュニティビジネス向け予算措置の準備

3 - 4

中部地域での取り組みから得られた教訓

中部地域において実施した、コミュニティビジネス創出・育成の取り組みから得られた教訓は以下の通りである。

ワークショップ形式の会議の有効性

- ・コミュニティビジネスは市民活動。肩肘張らない会議になるような工夫が必要。
- ・テーマに沿った作業中心のワークショップにより、中心となる人物を抽出できるメリットもある。

コミュニティビジネス実施者をメンバーに入れる。

- ・肩書き重視より、経験者重視のメンバー構成にする。
- ・コミュニティビジネス経験者の発言は、説得力がある。

複数地域による取り組みの長所と短所

- ・千葉県と茨城県とにまたがった地域であるが、共通点を探すことで協同への意識が高まった。
- ・3市合同の会議の進め方について課題が残った。全体会議と地域別会議の2段階に分ける必要がある。

地域間の統一が困難、メンバー同士の意思疎通が困難、地域毎の遠慮がある、メンバーが多くなりがちで発言の機会が十分に取れなかった。